



二学期の多読賞レース、始まっています！

二学期が始まりました。夏休みは終わったけれど、まだまだ暑さはおさまりませんね。そんな中、既に二学期の多読賞レースは始まっています。**締め切りは12月5日(金)**です。読書の秋、読書週間、“図書館まつり”がある二学期。読書の機会にも多く恵まれるので、たくさん本を読んで、上位を目指しましょう。



Books I want to give someone as a gift

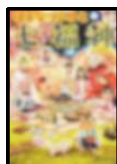
大切な人に贈りたい一冊



贈りたい本を選んでもらう本紹介レー。先生から生徒へとバトンを繋ぎます。校長先生からのバトンを受け取ったのは4年 図書委員長さん。どんな人にどんな人を？

贈りたい相手 家族

贈りたい本 『はるなつふゆと七福神』



資助 デイスクア文庫

会社をクビになった都冬のもとに、福祿寿と寿老人があらわれた。そして、知名度が低いことを悩む二柱に、ネットを使ったPRを頼まれる。平凡なネット女子と個性的な神様たちのゆるぐだ日常ファンジー。

“はるなつふゆ”と七福神は、季節の移ろいと福を象徴しています。家族の健康や幸せ、笑顔が絶えない日々を願って贈りたいと思いました。読むたびに心が和み、感謝の気持ちを伝えられる贈り物です。一年を通じて寄り添ってくれる存在として、日々の暮らしに彩りを添えてくれる本なので、是非家族に贈りたいです。

check

New Cinema Paradise

読んでから観るか？観てから読むか？

遠い山はなみの光

デビュー作にして、王立文学協会賞受賞作。後にノーベル文学賞も受賞。作者は日本生まれではあるが、5歳で英国へ移住した為英語で執筆。故に原作では、日本人同士の会話も英語というちょっと不思議な感覚。そんな作品が映画化。既にカンヌ国際映画祭で絶賛されている。戦後80周年となる2025年の夏、女たちがついた“嘘”から始まる物語がスクリーンに映し出される。

STORY

日本人の母とイギリス人の父を持つニキ。大学を中退して作家を目指す彼女は、長崎で原爆を経験し、後にイギリスへ渡り、苦楽を共にした長女を亡くした母・悦子の半生を作品にしたいと考える。次女に乞われ、ずっと口を閉ざしてきた過去の記憶を語り始める悦子。それは、戦後間もない長崎で出会った、佐知子という女性とその幼い娘と過ごしたひと夏の思い出だった。だが、ニキは次第にその物語の食い違いに気づき始める。

continue to the back

原作



カズオ・イシグロ ハヤカワepi文庫

9月5日公開

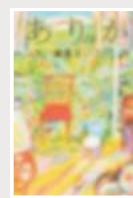
New Arrival Books



ツカレナオース！

佐々木 良 万葉社

「ツカレナオース」は、ビールを飲むこと。「アタマカトリセンコー」は、混乱すること。パラオ共和国の一部地域の憲法には、公用語の一つとして日本語が明記されている。また、パラオ語の25%(1,000語)ほどが、日本語由来の単語といわれている。そんな日本語由来のパラオ語の単語をつなぎ合わせれば、日本語として会話が成り立つのでは？という試み。パラオの日本語は独自の進化を遂げており、それらを楽しめる一冊！



ありが

瀬尾 まいこ 水鈴社

愛はここにある。幸せはここにいる。母親との関係に悩みながら、一人娘のひかりを慈しむシングルマザーの美空。義弟で同性のことが好きな暁斗は、兄と美空が離婚した後何かとふたりの世話を焼こうとするが…。

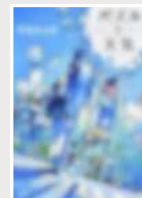
タイトル『ありが』は「自分が求めていた幸せや欲しかったものはここにあったのだ」という意味。



モノとごみの境界を歩く ごみと暮らしの社会学

梅川 由紀 青弓社

人々の日常生活に密着した「生活文化としてのごみ」に着目。ごみとモノの境界がどこにあるのか、時代によってその境界がどう揺れ動いてきたのか、ごみとモノの価値の違いとは何なのかを、多くの雑誌や資料の分析、ごみ屋敷でのフィールドワークから明らかにする。捨てればごみになるが、捨てないうちはモノなのか？



パズルと天気

伊坂 幸太郎 PHP研究所

他人の事はパズルだと思うよりも、天気だと思ったほうがいい。悩みを抱えた「僕」は、マッチングアプリでしか出会えない「名探偵」に依頼することになる。『パズル』をはじめ、『竹やぶパーニング』『透明ボーラーベア』『イヌケンソーゴ』『Weather』伊坂ワールドの魅力が詰まった5編のしあわせな短編集。

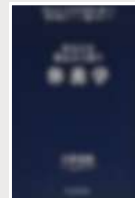


コーリヤと少年探偵団

柳 広司 理論社

二転三転、大逆転の殺人事件。世界的名作が【少年ミステリー小説】として生まれ変わった。

13歳のコーリヤの住む町に、カラマーゾフの三兄弟が戻ってきた。そして、三兄弟の父フォードルが死んだ。それは殺人事件だった。ドストエフスキー「カラマーゾフの兄弟」を、登場人物の一人“コーリヤ君”の視点から描く。



あなたを疲れから救う

休養学

片野 秀樹 東洋経済新聞社

疲労大国ニッポン。“攻めの休養”休むこと＝寝る子ことではない？

人はなぜ疲れるのか？休まないでいると人間の体はどうなるのか？疲れがとれる最も効果的な休み方は？20年間「休み方」を考え続けた専門家が編み出した「科学的に正しい休養法」を大公開する。